短 報

服部新佐*: 日本及びハワイ新記録 Targioniaceae**

Sinske HATTORI: Targioniaceae, new to Japan and Hawaii

昨年高木典雄氏が南アルプス戸臺川流域の白岩(約1000 m)で採集された1標本が日本に未記録の *Targionia hypophylla* L. にあたることを確めた。本属には他に4種が記載されているが、分布は極限され種に関する知見も不充分である。たゞ本種は歐洲(大西洋及び地中海沿岸)に産するため本属特有の形状が西歐の學者に注目され古來著名であつた。そして歐洲外にテネリファ、マデイラ、カナリー、アフリカ、マダガスカル、ペルシア、小亞細亞、印度、支那、北—中—南米、ニュージーランド、濠洲、タスマニア等に不連続的に(産地が局限されて)分布することが知られている。私は1昨年朝鮮より本種を報告したので(Journ. Jap. Bot. 22: 110. 1948)、我國からは本科は未記録ではあつたが、秩父や南アルプスのような古い山地の石灰岩地に本種の發見を豫想していた。南アルプスは未だ訪れる機會なく秩父地方へも西多摩御嶽と日原に行つたゞけであるが、それでも pre-tertiary relic として注目される *Scapania ornithopodioides* や *Acrobolbus titibuensis*、日本固有の單型属 *Tuzibeanthus* 其他顯著な種若干を發見することが出來た。恐らく未だ色々面白い種が藏されているであろう。*Targionia* は葉狀體頂端部から下方に體に較べて著大な2枚貝狀の包膜(この内部に孢子體を容れる)があるので誰でも識別出來る。朝比奈博士編、日本隱花植物圖鑑(昭19年)794—795頁に堀川芳雄博士の圖説がある。但しこれは *T. formosica* Horik. と言う臺灣固有種であるが、私は本種に極近いものと考へている。原記載(Journ. Jap. Bot. 11: 499. fig. 3. 1935)で本種を *T. hypophylla* と比較し、(1)孢子が遙かに小形、(2)葉狀體表皮細胞膜が全く肥厚せず、(3)氣孔はだ圓形を呈する點が異なるとされている。然し *T. hypophylla* に於ても孢子は50—60 μ に止つてることが多く、氣孔も圓形と定つてゐる譯ではない。たゞ表皮細胞膜は多かれ少なかれ角隅が肥厚しているのが常である。兎に角この兩種の關係は吟味の價值がある。序年ら堀川教授は *T. formosica* に関して“東亞にとつても全く最初の科である”又“筆者が本種を臺灣で採る迄は本属のものが東亞に産することは豫想もされなかつた”と書かれたが、同種發表の5年前發行 Mazzetti, Symbolae Sinicae 5 に *T. hypophylla* にが雲南に産するとあつた。

T. hypophylla はまたハワイにも産する。私は京都大學理學部植物學教室所藏の1標本(Hawaii: Maunaea, 2000 m, Jul. 1909, U. Faurié No. 581)が本種に屬することを確認した。同島は太平洋島であるが前記 *Scapania ornithopodioides* や *Anastrepta orcadensis*、或は本種や *Wiesnerella denudata* の如く孢子傳播の困難なゼニゴケ類などが産し、長く苔類の分布を追求している老大家 K. Müller も未だに同地の苔類フロラ成立の理解に苦しんでいる所である(Mitt. Naturk. u. Naturschutz 5: 114. 1950)。

* 服部植物研究所

** 文部省科學研究費による研究